

地域再生計画 事後評価シート

都道府県名	秋田県	市町村名	大館市	地域再生計画名称	地域の多彩な魅力で創造し、自然環境と都市機能が融合した北東北の拠点都市“おおだて”			
計画期間	平成19年度～平成25年度	交付金交付期間	平成19年度～平成25年度	認定年月日	平成19年3月30日(最終変更:平成25年4月26日)			
地域再生計画の概要	林道及び市道の効率的な整備により林業・木材産業の振興を図るとともに、併せて災害時における孤立地区の解消や狭隘路線の解消など生活環境の改善を図る。また、国道、県道、市道及び林道の環状化により、住民交流の促進や経済活動の活性化、更には観光拠点を形成し、大館市の将来像である『自然環境と都市機能が融合した北東北の拠点都市“おおだて”』を目指して地域の再生を図る。							
事業の実施状況	交付金名称	事業実施主体	道路種別	路線名	計画		実績	
					事業費(千円)	延長(m)	事業費(千円)	延長(m)
	道整備交付金	秋田県	林道 (3路線)	花矢線	300,000	2,206	237,600	2,206
				山新線	415,000	1,928	385,210	1,829
				尾去沢休間内線	174,073	947	77,100	944
		大館市	市道 (7路線)	高村杉苗出線	38,200	560	38,160	560
				中山線	10,440	103	10,440	103
				象ヶ鼻線	13,000	120	11,400	120
				松原4号線	35,562	343	35,508	329
				古川町鉄砲場線	44,300	198	33,558	198
大滝2号線				149,000	277	116,302	277	
計(10路線)				1,233,561	7,375	999,182	7,259	
地域再生計画に記載した目標の達成状況	テーマ (目標内容)	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)	実績値 (実績年度)	評価	達成状況による総合所見		
	目標1	林業の振興と地域産業の改善 (初回間伐実施面積6.2%増加)	773.58ha (H19) 100.0%	821.58ha (H21) 106.2%	856.90ha (H22) 110.8%	○	国有林と民有林が連携した地域の効率的な林業経営や森林の適切な維持管理が可能となり、劣悪林分の初回間伐の推進が図られ、目標を達成することができた。	
		林業の振興と地域産業の改善 (地域材入荷量20.0%増加)	106千m <sup>3</sup> (H19) 100.0%	128千m <sup>3</sup> (H22) 120.0%	130千m <sup>3</sup> (H26) 122.6%	○	連絡線形により国道や県道と接続され、木材産業施設へのアクセスが向上したため、地域材の入荷量が増加し、木材産業の振興が図られ、目標を達成することができた。	
	目標2	災害時における松原地区の孤立状態の解消 (松原地区～清水川地区間の脱出・救援経路の確保)	脱出・救援経路 (道路形態無し)	林道L=2,206m 市道L=343m (H23)	林道L=2,206m 市道L=329m (H23)	○	林道幅員7.0m、市道幅員6.0mで2車線通行が可能となり、また清水川地区との接続により、災害時における松原地区の孤立状態が解消され、目標を達成することができた。	
	目標3	安全、安心な生活環境の改善 (救急車両等到達時間5分短縮)	高村杉苗出線 L=560m,W=3.5m 中山線 L=103m,W=3.0m (H19)	高村杉苗出線 L=560m,W=5.0m 中山線 L=103m,W=5.0m (H21)	高村杉苗出線 L=560m,W=5.0m 中山線 L=103m,W=5.0m (H21)	○	道路幅員の拡幅により、車両の設計速度が10km/hから30km/hになり、救急車両等の到着時間が2路線で5分の短縮が図られ、目標を達成することができた。	
		安全、安心な生活環境の改善 (消防車両等の通行確保)	狭隘市道5路線 (H20)	狭隘市道5路線 L=1,631m (H25)	狭隘市道5路線 L=1,617m (H25)	○	未舗装区間の解消及び道路幅員、大滝沢踏切の拡幅により、緊急車両等の通行が可能となり、また側溝整備により生活環境の改善が図られ、目標を達成することができた。	
目標4	田代岳入林者及び市内全域の宿泊者数の2.5%、4,700人増加 (※1)	入林者22,680人 宿泊者165,147人 計187,827人 (H17) 100.0%	入林者27,160人 宿泊者165,367人 計192,527人 (H21) 102.5%	入林者15,388人 宿泊者127,333人 計142,721人 (H26) 76.0%	△	入林者の減少要因は山菜採りの高齢化、生育不良がよるが、市内全域の宿泊者数の大幅減少については、観光イベントの集客数が影響し、目標を達成することができなかった。		
※1(地域再生計画において、矢立地区温泉宿泊者数と記載されているが、数値については市内全域の宿泊者数を採用)								
整備状況写真	<p>【林道山新線開設】</p> 			<p>【市道大滝2号線踏切拡幅】</p> 				
計画全体の総合評価及び今後の対応	<p>本計画は、前記の目標を定め平成19年度から平成23年度までの5か年を計画期間としていたが、林道大滝2号線の踏切拡幅において、JR東日本との交渉や林道山新線の開設において、アクセス道の災害復旧に不測の日数を要したため平成25年度まで終期が延びました。</p> <p>目標1に掲げた林業の振興と地域産業の改善については、3路線の林道開設により国有林と民有林が連携した地域の効率的な林業経営、劣悪林分の初回間伐の推進が図られるなど森林の適切な維持管理が可能となり、また連絡線形により国道や県道と接続したため、木材産業施設へのアクセスが向上し、原木市場の移設や大型チップ工場の新設などの木材産業の振興が図られた。今後も地域材の入荷量を増大させるため、安定した木材流通のシステムを構築する必要がある。</p> <p>目標2に掲げた災害時における松原地区の孤立状態の解消については、林道及び市道の整備完了により、下内川の増水で松原橋が通行止めとなった場合においても、清水川地区への脱出・救援経路が確保できたため、安全な避難が可能となりました。今後は国道7号から県道白沢田代線を経由して田代岳への観光ルートとして県外からの集客に向け、情報の発信が必要である。</p> <p>目標3に掲げた安全、安心な生活環境の改善を図るため、未舗装区間の解消及び道路幅員、大滝沢踏切の拡幅により、緊急車両等の通行が可能となり、また側溝整備により生活環境の改善が図られ、目標は概ね達成することができました。</p> <p>目標4に掲げた田代岳入林者及び宿泊者数の増加については、目標に対する集客数が大幅に減少していることから、今後は新幹線の北海道延伸、また日本海沿岸道路の延伸を見据え、新たに集客できるよう観光PRを推進する必要があります。観光客が市内で宿泊してもらえるよう、ホテル、旅館、温泉施設関係者と行政が一体となり、ソフト事業の展開が重要である。</p> <p>大館の将来象を達成するための関連事業(御成町南地区土地区画整理事業、扇田地区まちづくり交付金事業、中心市街地の活性化事業、林業・木材産業支援事業、小型電子電気機器回収事業)について、最大限の効果を期するため、市総合計画により総合的かつ一体的に連携を継続していく。</p>							